

多高通信

第157号 平成30年8月30日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

SSHスキルアップ事業 つくば研修



7月12日から14日の3日間、1学年災害科学科全員と普通科の希望者の39名が参加しSSHスキルアップ事業「つくば研修」を行いました。

初日は、産業技術総合研究所地質標本館の見学と講義の受講、2日目は、防災科学技術研究所(NIED)と宇宙航空研究開発機

構(JAXA)2つのグループに分かれ、それぞれ見学や講義の受講、実習などの研修を行いました。最終日は、国土交通省 国土地理院 地図と測量の科学館と「筑波実験植物園」でそれぞれ見学・講義の受講などを行いました。また、初日・2日目の夜には、その日のまとめを実施した後、ミニプレゼンテーションなどを行い、アウトプットのスキルを高める活動につなげるなど、密度の濃い3日間となりました。

今後このような研修を通して、自然・科学などのさまざまな領域についての知識理解を深めるとともに、まだまだ解決できない多くの課題に対する解決方法を探究していきたいと考えています。



ホテルでのまとめ・プレゼンテーション

■生徒の感想

○グループでの討論やプレゼンテーションを通して、周りの人たちのプレゼン力の高さや考えの深さを感じました。私ももっと自分が感じたことをたくさん表現していきたいと思っています。

○たくさんさんの新しい経験をし、それを価値観の異なる人とのグループ活動を通して考えを共有することができました。たったの3日で本当に多くの経験をし、それらがすべて私の成長につながったと思います。

○人間社会が自然環境に大きな影響を与えていたり、多種多様な災害に対応するための防災対策という問題を社会全体で考えていくことは非常に大切だと思ったが、一口に防災と言っても様々な立場での考え方があり非常に難しいものだと思います。

サイエンス・デイ2018



顕微鏡観察コーナーの様子

7月15日、東北大学川内北キャンパスを会場として、体験型科学イベント「学都 仙台・宮城」サイエンス・デイ2018が行われ、本校SSH科学部の14名がブースに参加しました。天候にも恵まれ、当日は一人を越える来場者で、どのブースも人込みで溢れ返っていました。

本校SSH科学部の今年の展示テーマは「微生物探検隊〜小さな世界に潜む生き物の謎に迫る〜」。普段耳にするが実際にはあまり見ることのない生物であるクマムシやアニサキスなどの生体展示(顕微鏡観察)やポスター発表を行いました。展示を見に来ていただいた方々とやり取りをしながら説明を行いました。ポルボックスの展示では、その名前を知っている子どもがおり大変驚きました。

今回のイベントで2つの賞を受賞し、7月20日に東北大学カタールサイエンスセンターパスホールで「サイエンス・デイAWARD2018表彰式」に参列しました。



■伊勢 太一(1年3組 高崎中出身)
今回初めて参加した私たち1年生にとって、大勢の人

たちをお迎えするという経験が今までになく、開始直前まで緊張していました。しかし、SSH科学部の先輩方や他校の生徒たちが一生懸命説明している姿を見て、こちらから来場者に積極的に声をかけることができました。説明する中で私が一番苦労したことは、子どもたちにも分かるように難しい言葉をかみ砕いて簡単な表現で説明することです。休む間もなく7時間にも及ぶイベントを終えた時には、最後までやりきったという充実感がこみ上げてきました。

くらしと安全 特別授業

水難防止教室

7月20日、本校プールで水難防止教室が行われました。この特別授業は毎年、2年生の災害科学科の生徒を対象に実施しています。今回も、講師として宮城海上保安部の方々をお招きし、落水したときに行う背



浮きの方法を中心に教えていただきました。最初は、御指導いただくことで浮いていられるようになりまし

防災キャンプ

岩沼・玉浦地区 多賀城・山王地区

7月21日、本校1・2年生の防災委員15名が、岩沼市玉浦コミュニティセンターで行われた「防災キャンプ」に参加しました。玉浦地区では、子ども育成会が毎年「防災キャンプ」を開催しています。

本校の防災委員は、小学校4〜6年生を対象に津波および大雨・河川氾濫についての災害図上訓練を担当しました。玉浦地区の地図を用いて、津波が心配される場合に避難できる3階以上の建物に印を付け、その場所からコンパスで200m、400m、600mの円を地図に示して避難所要時間を把握したり、岩沼市のハザードマップを確認し、大雨によつて



スライドで津波浸水域を確認しました

阿武隈川が氾濫した場合、玉浦地区が浸水域になると想定されていることを確認しました。

■堀内 海里

(1年5組 塩竈三中出身)
今回の防災キャンプは、私にとって初めての校外での活動でした。バスでの移動中に、玉浦地区の災害公営住宅も見ることができ、以前よりも復興が進んでいることが分かって嬉しく思いました。

今回の活動は、小学4〜6年生を対象に行ったものでした。震災当時2〜4歳だった小学生は当時の記憶はほとんどないと思います。しかし、ワークショップで小学生たちは「ここは危ないから行かない方がいい」「避難するときはここに逃げよう」と話し合っており、自分のこととして考えていてすごいと思いました。私たち防災委員のプレゼンテーションやワークショップによって、防災・減災に関する知識がより深められたと思うので、今後このような活動を一つ一つ大切にしていきたいと思っています。

7月25日、山王地区防災キャンプに防災委員会より7名の生徒がボランティアとして参加しました。自己紹介を兼ねたゲームを本校生が中心となり実施し、交流のきっかけ作りを行いました。また、小学生のお手伝いとしてカードンドッグ作りなどに参加することができました。本校生としても、とても有意義なものとなりました。

■千葉 美月

(1年6組 田子中出身)

事前研修で試作したカードンドッグは、アルミホイルの巻きが足りず焦げてしまいました。当日はアルミホイルの巻きを増やしても良い焼き加減となりました。魚肉ソーセージの他にも、ちくわをはさんだものも作りました。絶品でした。



小学生が興味を持って主体的に取り組んでくれた良かったと思います。また、災害時に役立つ情報を知ることができた良い経験になりました。一方で、交流が少し足りなかったかもしれないという思いや、多高生として防災についての知識をさらに深めたいという思いを実感しました。次回にこういった活動に参加する際には今回の反省を活かしていきたいと思っています。

SS科学部

高校生バイオサミットin 鶴岡

■伊藤瑛玲奈

(1年6組 東仙台中出身)

私たちSS科学部は、7月30日から8月1日までの3日間開催された第8回高校生バイオサミット「鶴岡」に参加しました。この大会は、生命科学に係る高校生による研究をポスター発表するものです。私たちは平成28年から継続研究しているアカマツの松くい虫被害について、図表や写真の他に3Dプリンターを使って動画を用いた発表を行いました。残念ながら決勝に進むことができませんでしたが、審査員である研究者の先生方からいただいた評価やアドバイスを活かして、今後の研究を深めていきたいと思います。



今回経験した中で驚いたことは、全国から集まった高校生たちの高度な表現力と内容の深い研究についてです。また、スタッフの案内のもと行われた慶應義塾大学先端生命科学研究所の見学では、遺伝子導入した大腸菌にクモの糸を作らせることに成功したベンチャー企業の技術にも驚かされました。私たちの研究にも参考になることが多く、今後の活動に生かされたいと思います。



慶應大学先端生命科学研究所

また、スタッフの案内のもと行われた慶應義塾大学先端生命科学研究所の見学では、遺伝子導入した大腸菌にクモの糸を作らせることに成功したベンチャー企業の技術にも驚かされました。私たちの研究にも参考になることが多く、今後の活動に生かされたいと思います。

福島大・岩手大・宮城大

アカデミックインターンシップ

大学での学びを試行的に体験することを通して視野を広げ、学習意欲や進路意識を高めることを目的として、東北地区の国公立大学と提携しアカデミックインターンシップ(AI)を実施しています。今年度は、7月31日に福島大学人文社会学群人間発達文化学類、8月7日・8日の2日間で岩手大学理工学部、8月8日に宮城大学のAIが行われました。

■福島大学AI参加生徒の感想

参加させて頂いた3つの模擬ゼミはどれも学生主体で行われていました。どのゼミでも自分の興味のあることをただ調べるのではなく、調べたことと社会をつなげて考えたり比較したりしていました。また、学生同士で意

見交換や質疑応答をする姿が印象的でした。

大学生が模擬ゼミに参加して内容が難しいと思っても、実際は自分の好きなことを調べるから楽しい。」と言っていたので、私も今後、自分の興味・関心のあることを意識しながら、ニュースを見たり本を読んだりしたいと思いました。また、国内だけでなく海外のニュースも見て、比較できるようにしたいと思いました。

■岩手大学AI参加生徒の感想

もの作りにおいて、完成させ使ってもらうことで何をしたいのか、何ができるのか、それが社会に出て社会はよりよくなるのか、というように明確な目標を持ち、そこまでの筋道を具体的に考えることが大切だ、ということ学びました。そしてこのことは、もの作りだけでなく、何事にも当てはまることだと感じました。これから勉強でも明確な目標を設定し、それにたどり着くまで具体的に細かく考え、成績を上げ、今の最大の目標である大学進学を実現できるようにしたいです。



数理解・物理コースの様子。フランクヘルツの実験などを行いました。

■宮城大学AI参加生徒の感想

宮城大学事業構想学群で自分の将来の目標を実現させるために、自分のスキルを伸ばしていきたいと考えAIに参加しました。講義は体育学と数学を受講しました。体育学では、体のメカニズムの根本を考え、ほんの少しの身体の動きにより自分たちの身体にどんな変化があるのかを知ることができました。私は運動部に所属しているので、トレーニングのメニューや食事による体重増量のための栄養摂取に、この講義で学んだことを生かそうと思いました。数学では、高校の数学と異なり、答えの意味を追求したり、過程を大切にすることの大切さを学びました。高校の知識を使うため考えやすい部分と、問題の形式の違いや高校で経験していない内容を実際に体験できたことは、このAIで一番良い経験だったと思います。

今回のAIでは、大学のホームページやパンフレットを見るだけでは分からないことを自分で見て、聞いて、感じることができました。また、いろいろな話を伺ったり、宮城大の学生を見て、今後の学校生活や学習のモチベーションが高まりました。



模擬ゼミの参加。卒論が作られる過程を目の当たりにしました。

軽音楽部・家庭部

SEVEN BEACH FES. 2018



軽音楽部・夏空の下での野外ライブ

8月4日、七ヶ浜の菖蒲田浜海水浴場で行われたSEVEN BEACH FESTIVAL 2018に、本校の軽音楽部と家庭部が参加しました。昨年震災後初の正式な海開きを迎え、賑わいを取り戻した砂浜に多くの海水浴客が訪れました。軽音楽部は、塩釜高・宮城一高の軽音楽部をゲストに迎え、家庭部はフットボールを販売しました。

■菅原 楓(2年3組 矢本一中出身) セブンビーチフェスに参加し、地元の方々とのつながりや心優しさを直接感じることができました。今年は2年生が主体となり大変でしたが、コラボしたカフェのシエラや1・3年生のサポートをいただきながら良い形で参加することができたと思います。人と接することの楽しさを改めて実感できた行事になりました。

STAND UP SUMMIT 2018

8月6日、7日の2日間、東京ビッグサイトでSTAND UP SUMMIT 2018が行われました。本年度5回目の開催となる東日本大震災の復興支援イベントで、これまで国内外の学生延べ1200名が、未来は自分たちで創っていくという強い意志のもと、これからの復興についての議論を重ねてきました。

■村上 真綺(1年7組 五城中出身)

私はSTAND UP SUMMITに初めて参加しましたが、来年も行きたいと思うほど有意義な2日間でした。STAND UP SUMMITには個性豊かな人がたくさんいて、それぞれがいろいろな地域でいろいろな活動をしていて、たくさん

のディープな話を聞くことができました。最後の夕食では昨日出会ったばかりとは思えないほど親しく話すことができました。サミットで出会った多くの人たちに感謝し、この貴重な経験を今後の学校生活でも生かしていきたいと思っています。



ワークショップの様子

ないほど親しく話すことができました。サミットで出会った多くの人たちに感謝し、この貴重な経験を今後の学校生活でも生かしていきたいと思っています。

吹奏楽部・軽音楽部 信州総文祭

■軽音楽部 伊藤 佳那(3年1組 中野中出身)

私たちWindom Crewは、昨年度の宮城県高等学校対抗バンド合戦新人大会でグランプリをいただき、今回の信州総文祭に宮城県代表として出場してきました。各県の大会を勝ち抜いて出場するバンドが集まり、演奏・パフォーマンス共に非常にレベルの高い大会でした。同じ「軽音楽部」と言っても地域によってカラーが異なります。関西の学校は公式大会が大編成の部と小編成の部に分かれており、大編成の部ではメンバーが10人を越えるバンドも少なくありません。今回の信州総文祭でも、関西からは宮城の学校では見られないような編成のバンドがエントリーしており、オリジナル曲の音の厚さや発想・世界観の違いに多くの刺激を受けました。

■吹奏楽部 茂木さくら(3年3組 高崎中出身)

信州総文祭は、昨年10月に県代表として出場が決まった時からずっと楽しみにしていました。前日の交流会は、全国の皆さんとクイズなどを通して、とても楽しい雰囲気でした。また、同じ吹奏楽仲間として共通することや違うことを知ることが、県内にとどまっていた視野が一気に広がり、全国にはたくさんの仲間がいるんだということを感じることができました。当日の演奏した曲の中でも、私たちの十八番であるSeptemberの演奏、また、その曲中にある振り付けを会場の皆さんと一緒に出来たことを大変嬉しく思います。全国の方々が集まる場での演奏は緊張しましたが、感動や楽しさ、そして多賀城高校らしさを十分に伝えられたと感じました。これからも全国高等学校総合文化祭で吹奏楽を盛り上げていってほしいと感じました。



吹奏楽部